

第 10 回サミットプレイベント

「ソーシャルファームジャパンネットワーク会議」~ ネットワーク構築のために

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず

〒080-0802 北海道帯広市東 2 条南 4 丁目 10 番地

助成事業の概要

ソーシャルファームジャパンは、2007 年に設立し、就労に恵まれない方の支援活動をしている団体や個人のネットワーク拡大を目的として、2014 年、北海道新得町での第一回を皮切りに、全国各地で 9 回のサミットを開催して参りました。ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）は社会経済の発展と同時に改善し続ける必要があります。精算から消費まで、産業、福祉、労働、法務など多様な分野の担い手の連携が必要です。

今回は今まで開催してきた団体のネットワークを再確認して、来年度の SFJ サミット 10 回目を迎えたいと考えています。

日時：令和 6 年 3 月 2 日（土）14:30 ~ 17:30

形式：オンライン形式（参加者：74 名）

プログラム

1. 開会

2. 基調講演 講演時間：40 分

『飛躍するソーシャルファーム』

ソーシャルファームジャパン理事長 炭谷 茂氏

3. 各地の取組報告 講演時間：各 15 ~ 20 分

[1] 『農福一体のソーシャルファーム』

埼玉福興（株） 新井 利昌氏

[2] 『豊芯会 cafe ふれあいの事業から』

（社福）豊芯会 上野 容子氏

[3] 『大阪のソーシャルファームのひろがり』

（株）ナイス 富田 一幸氏

[4] 『登壇以降のカムラックグループの取組報告』

（株）カムラック 賀村 研氏

[5] 『花の木農場→南大隅町→大隅半島』

（社福）白鳩会 中村 隆一郎氏

[6] 『新得共働学舎の 45 年の歩み』

共働学舎新得農場 宮嶋 望氏

4. 質疑応答

5. 閉会

事業の成果

まず、ソーシャルファームジャパン理事長の炭谷氏より、「飛躍するソーシャルファーム」と題して基調講演していただいた。

近年、自分の適性に合う仕事に就くことが困難な人の増加による社会問題と就労先の問題から、ソーシャルファームの必要性が増大し、社会的な認識も高まり、民間企業、国、自治体の取り組みも進んでいる。国連から、障害者について福祉就労から一般就労への早急な移行の勧告もあり、「インクルーシブ社会」実現に向けて、近年特に活発になっている日本国内におけるソーシャルファームの動きや全国的な拡がりについてお話しいただき、ネットワーク会議開催にあたり改めて現在の状況と今後の課題などについて確認することができた。

全国各地でソーシャルファームに取り組んでいる方々の取組について報告いただいた。

[1] 埼玉福興株式会社 代表取締役 新井 利昌氏（埼玉県）

埼玉福興株式会社は、障がい者・ニート・触法者・病気を患う人・シングルマザーなど、社会的に働きにくい状況の人たちが、社会に居場所や役割を見つけ出し、自立できるような環境を創出するた

めに、農福連携に取り組んでいる。その取り組みは、こども食堂やオーガニック自校給食など、地域に根差した取組へと展開していった。

[2] 社会福祉法人豊芯会 顧問 上野 容子氏(東京都)

2015 年豊島区の都市計画で豊島区新庁舎 4 階に移転した cafe ふれあいで提供される「食」を通じた、行政・生産者・消費者・食事サービス店が共に築き上げるインクルーシブな関係づくりの取組について報告いただいた。

そのほか、株式会社ナイス富田一幸氏（大阪）、株式会社カムラック賀村研氏（福岡）、社会福祉法人白鳩会中村隆一郎氏（鹿児島県）、共働学舎新得農場宮嶋望氏（北海道）からも報告いただいた。

2014 年、北海道新得町で第 1 回目のソーシャルファームジャパンサミットを皮切りに、全国各地で 9 回のサミットを開催してきた。今回のソーシャルファームネットワーク会議は、いままで開催してきた団体のネットワークを再確認し、来年度の第 10 回目のサミット開催の弾みとなった。

■ 成果の広報・公表

今回の会議の内容は、Y o u t u b e で限定公開し、参加者数及びソーシャルファームジャパンの会員に対して、公表している。

また、講演資料については問い合わせがあった場合は、都度対応を行っている。

その他、今回の会議の内容をまとめた報告書を作成しており、完成した報告集は、ホームページやソーシャルファームジャパンの Facebook など公表予定である。

■ 今後の展開

ソーシャルファームジャパンは 2008 年の設

立以来、ニート、引きこもり、障害者、刑務所出所者、難病患者など多様な雇用弱者のソーシャルインクルージョンを目的として活動を始めたが、その後障害者に対する各制度が制定され就労支援の形態が変化している。

当初はソーシャルファーム概念の普及をめざし、都内で勉強会・総会、北海道や各地で勉強会を行ってきた。

2013 年からは、全国普及活動として「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催。北海道、滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島、東京、福島、小倉と展開し、今回は各地域で中心的にソーシャルファームの活動を行っている各団体からのサミット開催からこれまでの動きについて紹介することができた。第 3 回つくば大会から、制度への反映の声が高まり、推進議員連盟、自民党 PT、大阪府、東京都の取り組みが鮮明になり、東京都では条例が制定され、令和 6 年 1 月には、東京都ソーシャルファーム推進のための国際フォーラムも開催された。今後とも、社会的企業として良質な製品・サービスを提供し、各世代が身近に感じられる「ソーシャルファーム」の拡大を目指していく。